

女性研究者研究活動支援事業（拠点型）

(実施期間：平成 25～27 年度)

実施機関：筑波大学（総括責任者：永田 恭介（学長））

プロジェクトの概要

(1) 体制及び活動内容

筑波大学ダイバーシティ推進室内に「女性研究者研究活動支援ネットワーク WG」を組織し、連携連絡協議会と協力しつつ、事業を進める。

具体的な活動は、主として

- (A) WLB 環境支援・意識啓発：相談室等の開放、補助者雇用支援制度の適用拡大、意識啓発セミナー、情報交換サイトの開設等、
- (B) 研究マネジメントリーダー育成：研究力アップ・マネジメント力アップセミナーの開催等、
- (C) 研究シーズブラッシュアップ：技術情報・人的情報ネットワークの構築、勉強会の開催、を柱とする。

(2) 普及対象となる機関

確定している機関は、10 機関（大学 3、企業 7）で、およそ 900 名の女性研究者が在籍する。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	実施期間終了後の取組の継続性・発展性
A	b	a	a	a	a

総合評価：A（所期の計画と同等の取組が行われている）

(2) 評価コメント

研究学園都市つくばの特性を踏まえ、実施機関を中心として、教育・研究機関、企業の 11 機関からなる「つくば女性研究者支援協議会」を創設し、地域連携の基盤を整備して、女性研究者支援に係る産学連携体制を構築し、実施機関はもとより、連携機関の一部において、女性研究者の在籍比率が増加したことは評価できる。今後は、実施機関から連携機関へ向けたガバナンスを強化し、支援制度の相互利用システムの構築や、女性研究者の離職率の低減を図るとともに、女性研究者の在籍比率等に係る数値データの把握、公開に繋げることを期待する。

- ・ **目標達成度**：女性研究者の在籍比率、研究プロジェクトや研究業績数を増加させる目標等については、達成しているが、マネジメントに関わる女性の在籍者比率、女性研究者の離職率の減少に係る目標は達成できておらず、また、連携機関への波及効果については、効果が見られるとしているものの、具体的な数値実績が明確でなく、連携機関における目標達成度の把握が十分ではない。今後は、実施機関における本事業に係るガバナンスの強化を期待する。
- ・ **取組**：研究学園都市の特性を活かし、「つくば女性研究者支援協議会」を創設し、ネットワーク憲章を締結するとともに、産学連携体制を構築した点は評価できる。また、実施機関と連携機関の共催で各種セミナーや異分野研究交流会を開催し、女性研究者による共同研究の推進やリ

ーダーシップ育成を図ったことも評価できる。今後は、実施機関に設置したワーク・ライフ・バランス相談室、保育施設等を連携機関と相互利用するためのシステム構築を進めることを期待する。

- **取組の成果**：女性理事の誕生、女性教授数の倍増、女性准教授数が1.5倍に増加という顕著な成果が得られており、評価できる。また、一部の連携機関においても、女性研究者の在籍比率、マネジメントに関わる女性の在籍者比率が向上したことも評価できる。今後は、実施機関のリーダーシップの下、女性研究者に係る数値データの把握、公開を進め、連携機関における意識啓発を進めることを期待する。
- **実施体制**：ダイバーシティ推進担当の理事・副学長を室長とし、各部局から室員が参画するダイバーシティ推進室を中心として、取組を推進する実施体制が確立されたことは評価できる。さらに、実施機関と連携機関は「つくば女性研究者支援協議会」を創設し、担当者会議を介して、スムーズな連携体制を実現しており、評価できる。
- **実施期間終了後の取組の継続性・発展性**：実施機関において、中心となる事業を展開した「ダイバーシティ推進室」は「ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンター」に改組され、より包括的な視点に立ち、ダイバーシティの推進に継続的、発展的に取り組んでおり、連携機関との連携の継続や、連携の全国的な更なる展開も進められており、評価できる。